

株式会社松岡鐵工所

愛知県名古屋市

生産性向上

ものづくり

愛知県初のダイカスト金型メーカー。技術革新による生産性の向上、異分野との連携で顧客本位の提案推進

「いいもの作り続けて人々に喜んでほしい」、同社創業者松岡薫氏が考案した経営理念のもと、1943年軍需部品の製造メーカーとして創業。1946年には現在の業態のルーツとなる愛知県初のダイカスト金型製造に着手、業歴76年となる老舗金型メーカー。特許保有数5件、2010年戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)の認定において同業種・異業種と連携した研究開発を進めるなど長年蓄積されたノウハウを活用、技術革新を基盤とし自動車部品のトップメーカー(株)デンソーの協力会社として成長。

所在地 愛知県名古屋市緑区境松2-319
電話/FAX 052-621-2136 / 052-622-1154
URL <https://www.matsuoka-gr.com>
代表者 代表取締役 松岡 秀範

設立 1943年
資本金 2,500万円
従業員数 42人



付加価値を高める要因はユーザーの利便性向上を可能にする独自の技術力

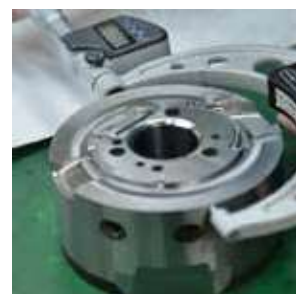
製造する金型に対し、部品調達・部品製作から製造後のメンテナンスを考え、すべての設計を3D化+2D化。CAD/CAMが普及し、設計の3D化が進むことでNC機能の付随した工作機械による生産性向上を図りながら、一方でCAD/CAMの普及していないユーザーを踏まえて、2D化の提供は、ユーザーに対する利便性を高め、付加価値向上につなげている。また同社独自の技術による金型の冷却回路における自動設計カスタマイズシステムの提供はユーザーのコストダウンに寄与し、同社金型製造の付加価値を高めている。



顧客ブランドを支える特注は一品でも対応

競争力の源泉となっている品質を確保する検査工程の自動化で業務の効率化を実現

同社は自動車部品の世界的トップメーカーである(株)デンソーの協力会社である。2017年にはDENSŌ品質賞を獲得するなど、そのポジションを確固たるものとしている。その要因となっている同社の強みは製品の品質の高さで、特に金型づくりの出口である仕上げ加工と検査においては優位性がある。現在、検査工程においては業務効率化が進んでおり、最新の3次元測定器を導入し、複雑形状であるダイカスト金型の測定作業の自動化を可能にするなど、検査のスピード・精度ともに向上した。



0.1μm単位で厳しく部品の合否を判定

異分野の取引先との共同開発連携により独自の技術開発で顧客ニーズに対応

同社単独での技術開発ではなく、異分野の取引先(表面処理企業や熱処理企業等)と連携した技術開発を行い、現状5つの特許を保有。たとえば、熱処理事業の取引先との「高周波加熱コイル」の開発は、同社独自の技術である「ダイレクト接合技術」と取引先の「コイル設計ノウハウ」を応用し開発したコイルで、従来のコイルと比較してコスト軽減、省スペース化、長寿命、納期短縮が図られ、「異分野連携新事業分野開拓計画(新連携)」にも認定されている。同社は顧客ニーズに寄り添った技術開発を、業態を超えて実施している。



高周波加熱コイルの提案で顧客ニーズ充足

生産性向上

ものづくり